

地域医療再生計画(案) (25億円分) 北播磨地域の小児救急・周産期・救急医療等再生、圏域の医療人材育成システムの構築

**圏域** 北播磨圏域

**現状**  
 公立(的)病院は7病院(公立5病院、公的2病院)であり、300床前後の中規模が多い。  
 公立(的)病院の一般病床数(1,660床)は、圏域全体の約7割で、地域医療に主要な役割を果たす。

**課題**  
 同規模の公立病院が存立し、医師確保が困難となっており、病院間の連携が求められている。  
 救急医療の脆弱化に対応した総合的な救急医療体制の充実が必要  
 3次救急事案が神戸等他圏域へ搬送されている実態とともに、県立加古川医療センターに救命救急センターが整備される状況を踏まえて、救命救急機能の補完体制の整備が必要  
 医師不足の実態を踏まえて、圏域で医療人材の育成派遣の仕組みを構築することが必要

**方策**  
 各病院の特色を活かした役割分担と連携による小児・周産期、救急医療等の再生、及び、圏域の医療人材育成システムの構築

- 疾患軸による各病院の特色を活かした救急医療等の再生(救急医療等の拠点整備)
  - 三木・小野両市民病院の統合による機能強化(17億円程度)
  - 心疾患の救命救急補完機能、小児救急機能、ER救急医療の強化
  - 市立西脇病院による機能強化(5億円程度)
  - 周産期機能(地域周産期母子医療センター)、脳血管疾患の救命救急補完機能の強化
- 救急医療を軸とした疾患ごとの連携構築(救急医療の連携)(1.8億円程度)
  - 救急 : 2次救急のあり方検討会、県立加古川医療センターと公立(的)6病院の協議会、公立(的)6病院による症例検討会等の開催
  - 脳血管疾患 : 市立西脇病院の脳卒中センター(仮称)を拠点とした地域連携クリティカルパス等によるネットワークの構築
  - 心疾患 : 北播磨総合医療センターの心臓血管センター(仮称)を拠点とした地域連携クリティカルパス等によるネットワークの構築
  - 周産期 : 遠隔医療を活用した周産期医療ネットワークの構築
  - 小児救急 : 小児救急の圏域ネットワークの構築
  - 公立病院間で患者情報を共有する統一電子カルテのコアシステムの導入
- マグネットホスピタルの確立による地域の医療人材の育成(1億円程度)
  - 神戸大学・圏域内の病院等による地域循環型医師育成システムの研究、北播磨臨床医師研修評価委員会の設置、北播磨地域医療学会の設置、医師の地域偏在解消のための修学資金貸与制度
- 地域住民の理解促進、協働体制の確立(0.2億円程度)
  - 西脇小児医療を守る会等とのコラボレーションによる地域の意識の醸成、病院見学ツアー、病院フェスタ、オープンホスピタルの実施、AED普及啓発事業の実施等

